

野菜の需給・価格動向レポート(平成28年8月1日版)

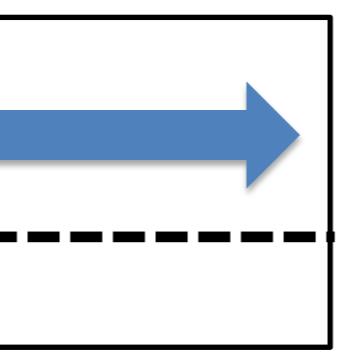
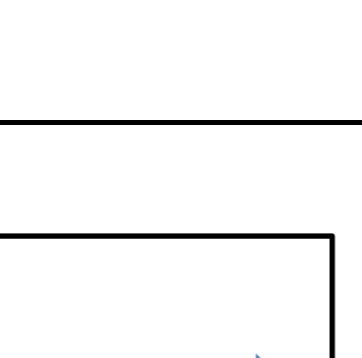
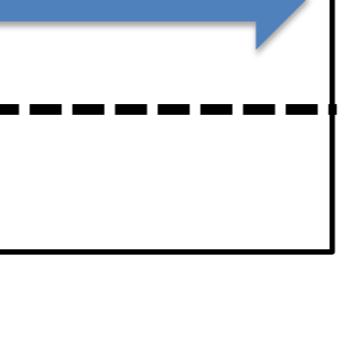
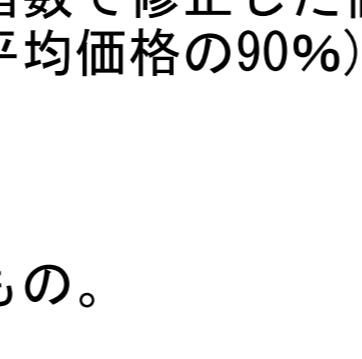
平成28年8月1日
野菜需給部

1 主要野菜の生産出荷状況

・レポートの読み方については、注意書きを参照してください。

種類	6月の価格情報			7月の価格情報			入荷量及び主要産地	生育及び価格の8月中旬までの見通し	「図の見方」			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格							
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬						
葉茎菜類	キャベツ	67.20 (131%)	88 (97%)	74.19 (94%)	72 (97%)	70 (94%)	・入荷量：15,513t ・主産地：群馬（79）、岩手（14）	平均価格 →	群馬産は、適度な降雨と好天に恵まれ生育は順調で、前進出荷傾向となっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。岩手産は、天候不順による日照不足から生育に遅れが見られ、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は天候の回復により出荷は回復し、平年並みの出荷の見込み。			
		81.66 (119%)	97 (82%)	88.91 (82%)	73 (82%)	73 (82%)	・入荷量：3,856t ・主産地：群馬（76）、長野（20）	→	群馬産及び岩手産が、平年より多め若しくは平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。			
	たまねぎ	78.12 (160%)	125 (150%)	93.34 (168%)	140 (168%)	157 (168%)	・入荷量：9,711t ・主産地：北海道（56）、兵庫（21）、佐賀（11）	→	北海道産は、6月の長雨等の影響が懸念されたものの、現時点では、8月上旬から出荷が始まる見込み。兵庫産は、べと病等の発生により、下等級品が多いものの、貯蔵用を市場出荷に回すことにより、引き続き平年並みの出荷の見込み。佐賀産は、収穫作業が終了し、現在貯蔵分の出荷となっているが、本年産はべと病等の影響により、貯蔵分が平年に比べ大幅に少ないことから、引き続き平年より大幅に少ない出荷の見込み。			
		78.12 (178%)	139 (179%)	93.34 (185%)	167 (185%)	173 (185%)	・入荷量：3,623t ・主産地：兵庫（61）、北海道（27）	→	北海道産及び兵庫産が平年並みと見込まれるもの、佐賀産が平年より大幅な減少と見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。			
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ)	277.31 (150%)	416 (150%)	287.00 (145%)	416 (146%)	419 (146%)	・入荷量：4,174t ・主産地：茨城（33）、青森（18）、北海道（14）、秋田（10）	→	茨城産は、適度な降雨もあり、おおむね順調な生育となっていることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。青森産は、天候に恵まれ生育はおおむね順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、6月の天候不順により生育が遅れていたものの、7月に入り天候の回復に伴い順調な生育となり出荷も多くなっていることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。秋田産は、7月収穫の作型の出荷の遅れで、現在出荷が集中し平年より多めの出荷となっているものの、今後は平年並みの出荷となる見込み。			
		334.73 (93%)	311 (63%)	487.13 (80%)	307 (80%)	389 (80%)	・入荷量：199t ・主産地：香川（29）、徳島（17）、三重（15）、奈良（12）、大阪（11）、高知（6）	→	北海道産が多めと見込まれるもの、茨城産、青森産及び秋田産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。			
	はくさい	67.05 (81%)	54 (81%)	58.82 (90%)	53 (92%)	54 (92%)	・入荷量：5,956t ・主産地：長野（94）	→	長野産は、適度な降雨と好天に恵まれ、生育が順調であることから、引き続き平年よりやや多めの出荷の見込み。			
		74.06 (73%)	54 (73%)	62.79 (83%)	52 (83%)	54 (86%)	・入荷量：2,572t ・主産地：長野（100）	→	長野産の出荷が平年よりやや多めと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。			
果菜類	ほうれんそう	376.10 (124%)	468 (124%)	583.95 (107%)	626 (104%)	607 (104%)	・入荷量：774t ・主産地：群馬（31）、栃木（22）、茨城（16）、岩手（12）	→	群馬産は、現在高冷地の中生の出荷が主流となっており、適度な降雨により、生育が順調なため、今後は夏物の盛期を過ぎ出荷量が漸減していくものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。栃木産は低温による生育遅れ等により、少なめの出荷となっており、引き続き平年より少なめの出荷の見込み。茨城産は、おおむね天候に恵まれ生育は順調であり、やや前進出荷傾向であることから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。岩手産は、おおむね天候も良く生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		416.73 (139%)	579 (139%)	670.86 (97%)	649 (102%)	684 (102%)	・入荷量：394t ・主産地：岐阜（81）、北海道（12）	→	茨城産の出荷が多めと見込まれるもの、群馬産及び栃木産、岩手産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。			
	レタス (結球)	120.13 (79%)	95 (79%)	120.13 (85%)	102 (86%)	103 (86%)	・入荷量：9,417t ・主産地：長野（83）、群馬（13）	→	長野産は、適度な降雨と好天に恵まれ、生育は順調であることから、引き続き平年並みの見込み。群馬産は、概ね生育は順調で前進出荷傾向であることから、引き続き多めの出荷の見込み。			
		125.61 (78%)	98 (78%)	125.61 (83%)	104 (83%)	110 (88%)	・入荷量：9,417t ・主産地：長野（99）	→	長野産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年を下回っている価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。			
	きゅうり	189.84 (145%)	275 (145%)	221.22 (153%)	339 (149%)	329 (149%)	・入荷量：8,173t ・主産地：福島（41）、岩手（24）、秋田（14）、山形（6）	→	福島産は、天候不良による生育の遅れで、平年よりやや少なめの出荷となっているが、生育が順調なことから、今後は平年並みの出荷の見込み。岩手産は、梅雨の天候不順による生育の遅れで、平年より少なめの出荷となっているものの、今後は天候の回復により、平年並みの出荷の見込み。秋田産は、低温が継続、生育が遅れているため、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は梅雨明けの気温の上昇とともに盛期である露地物の生育が回復すると見込まれることから、平年並みの出荷の見込み。			
		186.08 (135%)	251 (135%)	232.80 (136%)	317 (134%)	311 (134%)	・入荷量：2,098t ・主産地：福島（34）、北海道（24）、愛媛（23）	→	福島産、岩手産及び秋田産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在、平年並みの価格は、引き続き平年並みに推移する見込み。			
	トマト (大玉)	230.55 (118%)	272 (118%)	252.46 (107%)	270 (115%)	290 (115%)	・入荷量：9,927t ・主産地：青森（21）、北海道（18）、福島（16）、群馬（12）、岩手（9）	→	青森産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。北海道産は、7月に入ってから天候に恵まれ生育は順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。福島産は段の切り替わりが上手いかなかったことから、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、生育は順調なことから、今後は平年並みの出荷の見込み。群馬産は、現在平年より多めの出荷となっているものの、今後は端境期となるため、平年並みの出荷の見込み。岩手産は、梅雨の天候不順により、平年より少ない出荷量となっているものの、今後は天候の回復により、平年並みの出荷の見込み。			
		239.96 (117%)	280 (117%)	298.46 (105%)	314 (105%)	314 (105%)	・入荷量：2,332t ・主産地：北海道（44）、岐阜（31）、岡山（9）	→	青森産、北海道産、福島産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれることから、現在平年をやや上回っている価格は、引き続き平年をやや上回って推移する見込み。			
根菜類	なす	311.92 (117%)	365 (117%)	230.51 (164%)	378 (154%)	356 (154%)	・入荷量：5,043t ・主産地：栃木（31）、茨城（26）、群馬（25）	→	栃木産は、6月以降の降雨により生育が順調なことから、引き続き平年並みの出荷の見込み。茨城産は、天候に恵まれ適度な降雨もあり生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。群馬産は、日照不足により生育の遅れが見られ、平年よりやや少なめの出荷となっているものの、着花が順調なため、今後は平年並みの出荷の見込み。			
		271.01 (111%)	300 (111%)	232.81 (124%)	289 (124%)	300 (129%)	・入荷量：1,248t ・主産地：山梨（29）、徳島（15）、群馬（8）、奈良（8）、大阪（7）、京都（7）	→	栃木産、茨城産及び群馬産の出荷が平年並みと見込まれるもの、現在平年を大幅に上回っている価格は、平年に近づくものの、引き続き平年を上回って推移する見込み。			
	ピーマン	276.65 (127%)	350 (127%)	276.65 (133%)	369 (133%)	444 (160%)	・入荷量：2,400t ・主産地：岩手（50）、茨城（16）、福島（14）、青森（13）	→	岩手産は、梅雨により果実肥大が遅れていることから、現在平年より少なめの出荷となっているものの、今後は天候の回復により、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、春作の樹勢が低下し、病害の発生もみられるが、今後は抑制栽培作物が順調な生育となっていることから、平年並みの出荷の見込み。福島産は、曇天等による生育遅れから平年よりやや少なめの出荷となっているものの、今後は梅雨明け後の気温の上昇に伴い出荷量が増加することから、平年並みの出荷の見込み。			
		293.32 (123%)	360 (123%)	293.32 (125%)	366 (125%)	404 (138%)	・入荷量：583t ・主産地：青森（19）、兵庫（15）、北海道（13）、大分（9）、福島（7）、愛媛（7）	→	岩手産、茨城産及び福島産の出荷が平年並みと見込まれるもの、現在平年を大幅に上回っている価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。			
	だいこん	86.59 (103%)	89 (103%)	94.60 (137%)	130 (123%)	116 (123%)	・入荷量：9,618t ・主産地：北海道（67）、青森（27）	→	北海道産は、7月に入り天候の回復により生育が回復していることから、現在平年並みの出荷となっているものの、今後は天候不順により播種作業が進まなかったことから、平年より少なめの出荷の見込み。青森産は、天候に恵まれ生育は順調であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。			
		89.53 (111%)	99 (111%)	95.37 (136%)	130 (123%)	117 (123%)	・入荷量：3,234t ・主産地：北海道（76）、青森（10）、岐阜（10）	→	青森産の出荷が平年並みと見込まれるもの、北海道産の出荷が平年より少なめと見込まれることから、現在平年並みの価格は、平年を上回って推移する見込み。			
	にんじん	133.01 (84%)	112 (84%)	133.01 (74%)	99 (111%)	147 (111%)	・入荷量：6,698t ・主産地：北海道（90）、青森（5）	→	北海道産は、6月の降雨や曇天の影響で歩留まりが悪くなつたことから、平年より少なめの出荷となっているものの、後続産地の生育は順調であり、付面積も増えていることから、今後は平年より多めの出荷の見込み。青森産は、天候に恵まれ生育は順調で、太り良好なことから、引き続き平年より多めの出荷の見込み。			
		132.62 (87%)	115 (87%)	132.62 (78%)	104 (112%)	149 (112%)	・入荷量：1,947t ・主産地：北海道（96）	→	北海道産及び青森産の出荷が平年より多めと見込まれることから、現在平年を上回っている価格は、平年並みに推移する見込み。			

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	6月の価格情報		7月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の8月中旬までの見通し		「図の見方」		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿フロック旬別平均販売価額	(参考)指定野菜の関東・近畿フロック旬別平均販売価額			現時点の価格水準	今後の価格水準			
			下旬	上旬						
いも類	さといも	361.20	515 (143%)	361.20	509 (141%)	554 (153%)	・入荷量：461t ・主産地：千葉（53）、宮崎（34）			
		347.90	564 (162%)	347.90	589 (169%)	624 (179%)	・入荷量：103t ・主産地：宮崎（73）、鹿児島（11）			
	ばれいしょ	138.39	175 (126%)	111.77	176 (157%)	169 (151%)	・入荷量：6,007t ・主産地：北海道（80）、青森（7）、茨城（6）			
		144.98	193 (133%)	111.77	190 (170%)	178 (159%)	・入荷量：1,218t ・主産地：北海道（82）、青森（10）			

注：1 平均価格は、過去6年間（平成20～25年）の関東及び近畿フロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均（消費税は除く）で、保証基準額の算定の基となる価格。

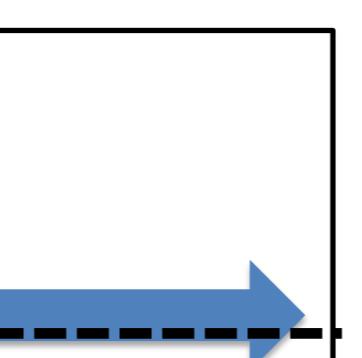
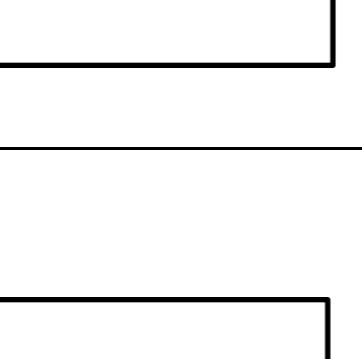
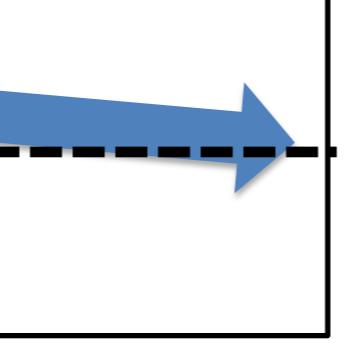
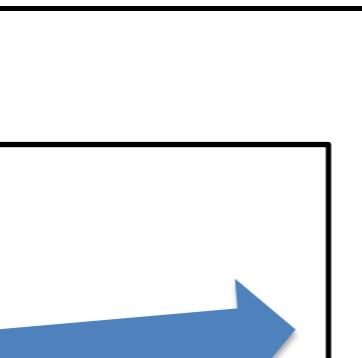
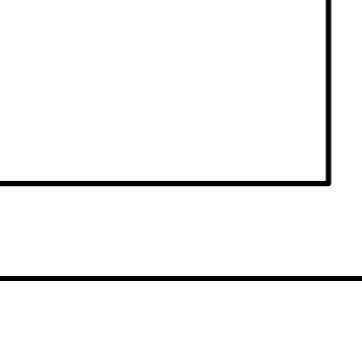
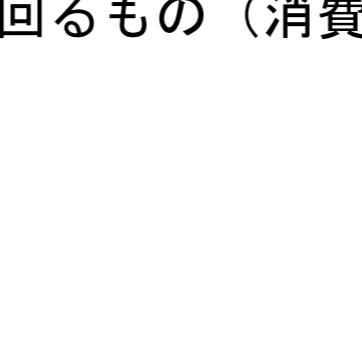
2旬別平均販売価額の赤字および青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字および赤の背景は保証基準額（平均価格の90%）を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

3 単位は円/k g、上段は関東、下段は近畿フロック。

4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。

5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（）内は入荷シェアで前年実績である。

6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聞き取りをもとに機構が作成したもの。

種類	6月の価格情報		7月の価格情報		入荷量及び主要産地	生育及び価格の8月中旬までの見通し		「図の見方」		
	(参考)過去5年平均価格	東京・大阪市場の旬別価格	(参考)過去5年平均価格			現時点の価格水準	今後の価格水準			
			下旬	上旬						
洋菜類	ブロッコリー	371.45 (141%)	523 (144%)	359.68 (112%)	517 (112%)	403 (112%)	・入荷量：1,519t ・主産地：北海道（76）、米国（13）、長野（10）			
		376.30 (151%)	567 (147%)	374.14 (115%)	549 (115%)	432 (115%)	・入荷量：352t ・主産地：北海道（60）、長野（16）			
	アスパラガス	1103.17 (111%)	1,227 (121%)	990.95 (116%)	1,204 (116%)	1,145 (116%)	・入荷量：739t ・主産地：栃木（22）、長崎（17）、福島（17）、佐賀（15）、秋田（9）			
		1093.69 (108%)	1,179 (131%)	854.32 (131%)	1,120 (131%)	1,121 (131%)	・入荷量：177t ・主産地：佐賀（20）、福岡（17）、長崎（17）、タイ（11）			
果菜類	かぼちゃ	209.73 (112%)	234 (110%)	216.73 (103%)	238 (103%)	224 (103%)	・入荷量：2,874t ・主産地：北海道（64）、青森（7）、秋田（5）、新潟（4）			
		153.06 (83%)	127 (72%)	165.00 (75%)	119 (75%)	124 (75%)	・入荷量：1,033t ・主産地：北海道（51）、N Z（16）、石川（15）、韓国（7）			

注：1 平均価格は、過去5年（平成23～27年）の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。

2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/k gである。

3 旬別価格の赤字および青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの。太字および赤の背景は平均価格を80%を下回るもの（消費税は除く）であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

4 入荷量は、東京都及び大阪市中央卸売市場の過去5年平均の数値である。

5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。（）内は入荷シェアで前年実績である。

2 野菜の輸出入動向 — 輸出入数量と主な生鮮野菜の輸出入について —

貿易統計による、6月の野菜の輸入量は、生鮮野菜が、8万トン（前年同月比98%）、加工野菜が15万5千トン（同102%）、野菜全体では、2.3万5千トン（同101%）となった。このうち、中国産の野菜合計は11万6千トン（同95%）となった。	野菜の輸入数量						野菜の輸出数量	
	(単位：トン、%)							
	区分	平成26年 前年比	平成27年 前年比	平成28年6月 前年同月比	平成28年1月～6月 前年同月比	平成26年 前年比	平成27年 前年比	平成28年6月 前年同月比
生鮮野菜	884,735	104	826,833	93	79,741	98	424,353	91
加工野菜	1,785,487	96	1,752,341	98	154,999	102	859,802	97
野菜合計	2,670,222	99	2,579,175	97	234,740	101	1,284,154	95
うち中国産野菜合計	1,409,604	100	1,355,497	96	116,400	95	617,203	93
中国産シェア	53		53		50		48	
主な生鮮野菜の輸入先(平成28年6月)	野菜の輸出数量						(単位:トン)	
	区分	平成26年 前年比	平成27年 前年比	平成28年6月 前年同月比	平成28年1月～6月 前年同月比	平成26年 前年比		
	合計	1位	2位	3位	1位	国名		
		国名	数量	国名	数量	国名		
たまねぎ	35,056	中国	28,664	ニュージーランド	4,914	豪州	1,195	
かぼちゃ	8,691	メキシコ	8,685	米国	6			
にんじん及びかぶ	6,507	中国	5,993	ニュージーランド	437	豪州	68	
ジャンボピーマン	4,701	韓国	4,395	オランダ	306			
ねぎ	4,384	中国	4,384					
ばれいしょ	3,831	米国	3,811	中国	20			
主な生鮮野菜の輸出先(平成28年6月)	野菜の輸出数量							
	区分	平成26年 前年比	平成27年 前年比	平成28年6月 前年同月比	平成28年1月～6月 前年同月比	平成26年 前年比		
	合計	1位	2位	3位	1位	国名		
		国名	数量	国名	数量	国名		
たまねぎ	38,503	中国	31,551	ニュージーランド	5,432	豪州	1,492	
かぼちゃ	6,251	メキシコ	6,251					
にんじん及びかぶ	8,530	中国	8,216	ニュージーランド	216	豪州	89	
ジャンボピーマン	4,749	韓国	4,212	オランダ	537			
ねぎ	4,547	中国	4,547					
ばれいしょ	3,121	米国	3,115	中国	6			
主な生鮮野菜の輸出先(平成27年6月)	野菜の輸出数量							
	区分	平成26年 前年比	平成27年 前年比	平成28年6月 前年同月比	平成28年1月～6月 前年同月比	平成26年 前年比		
	合計	1位	2位	3位	1位	国名		
		国名	数量	国名	数量	国名		
ながいも等	656	台湾	323	米国	280</td			